

第10回パーキング・ジャパン2008

2008年5月9日（金）海外特別講演サマリー

ドイツ・フライブルク市の駐輪場を活用した「複合型交通サービスについて」

～第1部 フライブルク市における

複合型交通サービスの成立と理念、近況について～

フライブルク市カーシェアリング協会代表／モビレ公益有限会社代表
マルティン＝マティアス・リュプケ講演



夕暮れ時の『モビレ・フライブルク』



マルティン＝マティアス・リュプケ氏
(教育学・社会学・法律学修士)

自転車と移動の複合型交通ステーション

『モビレ・フライブルク』（前編）

1. はじめに

日本の皆さま、本日はご招待いただきありがとうございます。私は現在、カーシェアリング南バーデン・フライブルクというカーシェアリングの協同組合の代表、および有料の駐輪場ステーションを運営するモビレ公益有限会社の代表をしております、マルティン＝マティアス・リュプケと申します。私は若き頃からアルピニスト

でもあったため、気候温暖化や環境破壊の影響をいち早く感じ、環境保護の分野にすでに古くから関心を持っていました。そのため、環境保護を推し進めるために78年からは政治的な活動をしておりましたし、以前には緑の党の政策コンセプトを練るため、旧西ドイツの首都ボンで連邦議会付けの職員としても働いていました。

今日は皆さまに、フライブルク市で行われている有料の駐輪場の

プロジェクト『モビレ』について、さらに、おそらく世界ではじめてのことかと思われませんが、私がフライブルク市で導入した『レギオ・モビルカード』について紹介いたします。

まず、『モビレ』についてお話しする前に、ドイツの有料駐輪場を巡る議論を紹介いたします。

ドイツでは90年代に入るまで、自転車の駐輪場は公共が無償で道路上など平面での場所において提

供するものであり、有料の施設としては存在しませんでした。ただし、80年代の後半から、オランダの事例を参考に、ノルトライン・ヴェストファレン州におきまして都市の中心部である中央駅前に有料の駐輪場の整備が構想され、90年代から実際に有料駐輪場施設の設置が進められています。

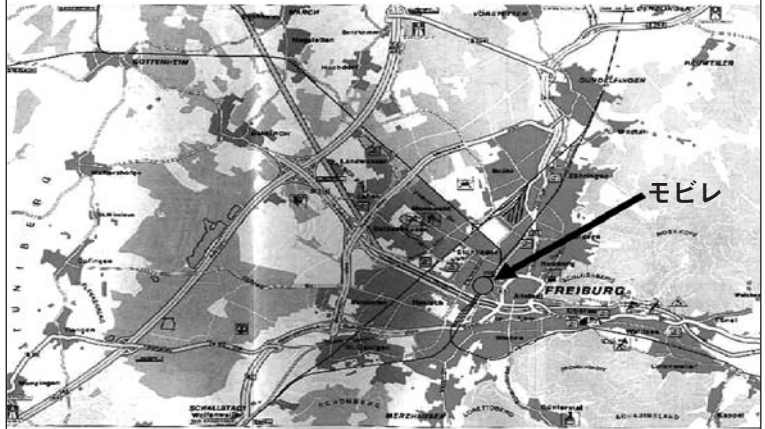
フライブルク市におきまして、全ドイツ自転車クラブ（ADFC）とドイツ交通クラブ（VCD）という、いわゆる環境寄りの2つのNGOの提案により、有料の自転車ステーションを設置するコンセプトが1988年に提案されています。

1993年には、私のイニシアチブのもとで、上述のNGOに加えて、ドイツ環境・自然保護連盟（BUND）、フライブルク市のカーシェアリング協会（FAG）、公共交通利用者連盟（PRO BAHN）、さらには長期の失業者の雇用機会を促進するNPO（VABE）といった6つのステークホルダーで、単なる駐輪場としての機能だけではなく、失業者の雇用機会を提供しながら、自転車交通、および公共交通を促進するステーションとしてのコンセプトを作成しました。それに伴って精力的な政治的活動を行いまして、1996年にはフライブルク市議会でこのコンセプトが可決され、1999年9月9日9時9分という9並びの日時をもって、『モビレ・フライブルク』は運営を開始しております。

2. モビレ・フライブルクの概要

この『モビレ』は上図のようにフライブルク市の中央に位置しております。

モビレ：フライブルグ市の真ん中で mobil-mitten in freiburg

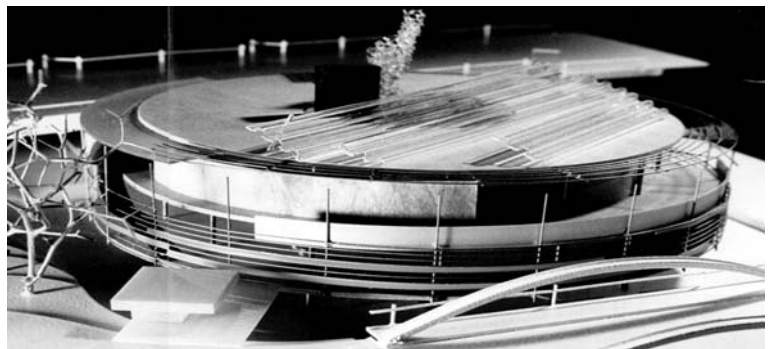


-wer da hingehktommt gut weg

フライブルク市の中央駅に隣接し、鉄道路線に交差するトラム路線の陸橋と自転車専用の陸橋に挟まれるような場所に、モビレは建設されました。このモビレの建物自体は、市営の企業であるフライブルク自治体建設（FKB）が施主であり、所有者で、建設場所はドイツ鉄道職員の駐車場の上に、つまりドイツ鉄道が無償で土地（空中権）を提供した場所に建てられています。ですから、モビレの地上階はボールで支えられた高床式となっていて（駐車場の機能はそのままで）、2階の駐輪場部分は

自転車専用の陸橋と接続し、3階部分はトラム路線の陸橋に接続されています。

モビレは、円形に設計されています。2枚の円盤は、新しい複合交通による個人の移動と新しい交通政策をイメージしています。モビレは、環境保護のプロジェクトでもあることから、建設時にはPVCを排除したり、屋上緑化を取り入れたり、ソーラー発電パネルやソーラー温水器が設置されています。外装材には、地元産の針葉樹を利用していることもポイントです。



ROLF&HOLZ設計事務所によるモビレのモデル



2階の駐輪場部分の様子

このモビレの建設には189万ユーロ（約2.9億円）の投資が必要だったわけですが、その半分はバーデン・ビュルテムベルク州からの補助金（自治体のための交通融資法による）、そして1/4はフライブルク市が負担し（市内で駐車場を確保できない企業が自治体に支払う駐車場代替負担金から支出）、残りの1/4はフライブルク自治体建設（FKB）の投資という形で賄われました。モビレの運営のために1997年にはモビレ公益有限会社が設立されています。この運営企業が、FKBに毎月8,500ユーロ（約130万円）の家賃を支払うという形で経営がなされています。当初は先述したステークホルダーのうちBUND、FAG、VABE、VCDの4つの団体がこのモビレ公益有限会社を共同経営しておりましたが、収益が悪化したため、昨年（2007年）の年末からは経営体力のあるFAGの単独出資という形に変化しています。

3. モビレ・フライブルクにおけるサービス

それでは、モビレ・フライブルクで提供されているサービスについて、概要をお話します。2階の駐輪場部分には、910㎡の敷地に1,001台分の駐輪場が設置されています。ここは、長期失業者の再就職訓練の場所として、自転車の監視（盗難の場合は保険に加入しているため補償有り）、駐輪の受付、パンクやライト修理など簡単な修理・整備サービス、そして100台あるレンタサイクルの貸し出しを行っています。この部分は州からの補助金で建設されたため、賃貸料金は500ユーロ（8万円）しか発生していません（これは維持管理費と将来の補修の積み立てとしての金額です）。駐輪場の出入りにつきまちは、自動化を行っておらず、人が管理する形となっています。

さらに3階部分についてですが、屋内延床面積として615㎡あります。ここには、以下のような専門店、サービス窓口が参入し、

2階（日本式の3階）：室内面積615㎡



自転車店：110㎡、会議室70㎡、カフェ220㎡



モビリティセンター：175㎡、
その他の事務所・機械室など

3階部分の様子

それぞれの占有面積に応じて、参加者は賃貸料金を支払っています。

- ・旅行用に特化した自転車専門店（自転車や付属品の販売と質の高い整備・修理）
- ・電車などの待ち合わせのためにオーガニック・カフェ
- ・自転車に関するセミナーやワークショップが行えるための会議室
- ・モビリティセンター（カーシェアリング協会の事務所と窓口、地元の自転車や公共交通で行う旅行に関する相談窓口、マウンテンバイクツアーなどアクティブな旅行窓口、公共交通・鉄道チケットや環境にやさしい旅行を販売するモビレ旅行社）

このようにモビレは単なる有料の駐輪場ではなく、自転車と公共交通、そしてカーシェアリングという異なる交通手段の複合型の交通ステーションとして存在しています。

（次号に続く）

講演の文章化、文責 村上敦